

2021年4月発行

CWS JAPAN NEWSLETTER NO. 55

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

中間報告：誰一人取 り残さないレジリエ ントな多文化共生コ ミュニティ新宿区を めざして

わたしたちは災害時に人種、宗教、文化、社会的/経済的地位等の違いに拘わらず、誰一人取り残されない支援の仕組みを構築すべく、日々活動をしています。特に国内では、近い将来発生が予測されている首都直下型地震に備え、災害時に支援の手が届きにくいことが予想される在日外国人の方々が支援の手からこぼれないよう、どのような支援の取組が持続的且つ効果的か、様々な協力者の方々とともに模索しています。そこで、CWS Japanでは、トヨタ財団より助成を受け、2020年10月から「誰一人取り残さないレジリエントな多文化共生コミュニティ新宿区をめざして」と題した調査事業を開始しました。

本調査事業では、国籍や文化など多様な背景を持つ外国人住民が多い新宿区を対象に、災害時に脆弱な外国人が取り残されることがない地域住民が助け合いの行動がとれるようなレジリエントな多文化共生コミュニティ構築を長期的に目指しています。上記目標達成のために、本事業期間前半は、在日外国人支援に関わる宗教・支援団体に対して、活動状況や平時および災害時の支援における課題の聞き取りを行いました。

OUR SNS IS ACTIVE!

FACEBOOK
TWITTER
INSTAGRAMでも
情報発信しています!

最後のページを
ご覧ください



誰一人取り残さない
レジリエントな
多文化共生コミュニティ
をめざして

 CWS JAPAN
Church World Service

その結果、地域の宗教施設の中には、防災の取組に関心があり、何等かの貢献の仕方を模索してはいるものの、具体的な動きに繋がっていないという実情があることがわかりました。既に同分野で活動している支援団体の知見や経験の中から、多様な文化的、社会的背景を持つ外国人への支援のためには、自助・公助以外の共助の強化という意味で、コミュニティの中で相互扶助の関係性を構築することが必要であること、またそれに賛同する支援の担い手の確保が課題であることを再認識することができました。また、この調査の過程で、様々な宗教団体・支援団体から、当会の本取組への共感・理解も得ることができました。

新型コロナウイルス感染症による影響が大きく、調査活動が難航した時期もありました。現在も、オンラインを駆使しながらの調査活動に苦労していますが、様々な協力者の方々の知恵やネットワーク、協力してくれている大学生グループのアイデアや彼らとのディスカッションを通して、この調査を進めることができます。調査の進め方に関する学びも抽出し、それらをもとに、他のステークホルダーに対する調査も関係者の皆様からご協力を得ながら進めていきたいと考えています。

引き続き、本活動へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願い致します。

(文：プログラム・オフィサー 西澤紫乃)

"多様な文化的、社会的背景を持つ外国人への支援のためには、コミュニティの中で相互扶助の関係性を構築することが必要と再認識することができました"

JCC-DRRの新たなフェーズに向けて

CWS Japanではネットワークを重視していません。一言にネットワークと言っても形態や関わり方は様々ですが、わたしたちが目指す「災害時に支援の手が届かず取り残される人々のいない社会の実現」は特定の課題解決を行う事業だけでは生まれず、持続的なインパクトのための「仕組みづくり」が何よりも重要と考えているからです。本号では防災・減災に関するネットワークとの関わりをご紹介します。

防災・減災日本CSOネットワーク（JCC-DRR）は2013年に始動しました。2013年に5月にジュネーブで開催された防災グローバルプラットフォーム会議に、CWS Japanを始めいくつかの日本のNGOが参加しましたが、その時「2年後（2015年）に仙台で行う第3回国連防災世界会議（WCDRR）では福島原発事故は取り扱わない」との日本政府の意見表明を受け、「人災を意図的に外すのは防災的に良くない」と私達有志が感じたのが始まりです。

その課題意識は104団体が参加するムーブメントへと発展し、WCDRRにて東日本大震災の教訓をグローバルな防災指針（仙台防災枠組2015-2030）に反映させるために、日本政府、仙台市との折衝や、国連国際防災戦略事務局（UNISDR）のOrganizing Partner（公式開催パートナー）として、WCDRRに向けた政策提言活動、主要グループの連携強化、市民防災世界会議の開催、防災分野における海外の主要ネットワークとの覚書締結、福島10の教訓の発行、市民のための仙台防災枠組の発行、ピープルズ・パビリオン（国連防災世界会議期間中に設営した国際交流テント）の設置、展示ブースへの出展、宮城・福島への現場視察の実施などの企画運営などを行いました。

仙台防災枠組に原発事故などに関連する「人為的災害」が明記され、WCDRRは歴史上初めて原発災害等の複合的災害がテーマの一つとして取り扱われるなど、市民社会のアドボカシーとしてはある一定の成功を収めたと考えます。



写真：WCDRR（2015年）の様子

ただ、課題もあります。気候変動の影響もあり、災害が各地で増加し、被災する人や経済的な損失が急速に増えています。2030年までの仙台防災枠組の達成を考えた時に、市民が各種災害から学ぶ「教訓」を更にきちんと抽出し、それが継続的に今後の防災・減災力強化に活かされていく事がとても重要だと感じます。

それには経験や知見の集約が有志のネットワークの中で継続性のある活動となり、防災・減災力の向上に活かす為の一定レベルのリソースも確保しながら、加盟団体にとって、そして社会にとって有益な活動となる必要があります。これは大きな転換ですが、CWS JapanではJCC-DRRのこの新たなチャレンジが軌道に乗るように、積極的な役割を担っていきたいと考えています。

"わたしたちにとって、ネットワークは「災害時に支援の手が届かず取り残される人々のいない社会の実現」に向けて切っても切り離せないものなのです"

わたしたちにとって、ネットワークは単に利他的な活動ではなく、「災害時に支援の手が届かず取り残される人々のいない社会の実現」に向けて切っても切り離せないものなのです。それを積極的に体現していく事こそ、CWS Japanの付加価値を社会に還元する事でもあり、NGOという社会的な組織としてその責任を真摯に捉え、行動していきたいと思っています。JCC-DRRの詳細については[こちら](#)をご覧くださいだけですと幸いです。

(文：事務局長 小美野剛)

特定非営利活動法人CWSJapan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：
public@cwsjapan.jp
電話：
03-6457-6840



[CWSJapan](#)



[@Japan_CWS](#)



[cws_japan](#)